

第4号

○令和5年度
・第4回理事研修会



発行
北海道小学校長会
札幌市中央区北5条西6丁目
第二北海道通信ビル306号室
TEL 011-218-9850
FAX 011-218-9851
e-mail: h.s.k-32@dousho.jp
https://www.dousho.jp/

令和5年度

第4回理事研修会

☆令和5年12月15日(金)10時30分より
☆Web開催

【報告事項】

- 全連小第245回理事会報告
- 教育情報について
- 会務・各部の活動について
- 第66回道小教育研究渡島・北斗大会について
- 第75回全連小東京大会報告について
- 令和6年度以降の研究関連分担
- 道教委・教育局への要望内容の集約について
- 北海道へき地・複式教育研究連盟(へき・複連)の活動や要望について
- 北海道特別支援学級設置学校長協会(道特協)の活動や要望について
- 令和5年度第1回運営委員研修会(中間監査報告)について
- 全連小対策・調研担当者連絡協議会報告について

【道教委 行政説明】

- 学校図書館の体制整備と利活用の推進について
- 授業時数(教育課程の編成)について
- 令和5年度小学校管理職研修について
- 特別支援教育について
- 学校における暑さ対策について
- フッ化物洗口について
- 学校保健活動の充実について
- 教職の魅力啓発事業について
- 新たな研修制度について
- 北海道教育大学教職大学院への研修派遣について
- 今後の端末更新を見据えた1人1台端末の更なる活用について
- 研修受講アンケート協力のお礼

【協議事項】

- 道小大会運営研修(反省会・引継会)を受けて
- ①道小大会運営研修会(反省会・引継会)の報告
- ②第66回道小教育研究渡島・北斗大会を振り返って(理事より感想意見)
- 第67回道小教育研究空知・岩見沢大会について
- 道小大会及び第76回全連小徳島大会の参加割当等
- 次年度活動計画・総会宣言文の作成について
- 次年度役員選考について
- 活動計画作成委員の委嘱について

【連絡】

- 第5回理事研修会について
- 次年度諸会議年間計画(案)
- 役職定年等会員の感謝状及び記念品について
- 次年度全道会長研修会の話題集約について

1 開会の言葉 …………… 谷口 光伸 副会長

もう、半月で2023年(令和5年)も終わりとなる。本日は、12月15日、暦でいう二十四節気では、「大雪」にあたり道北や道央の地域では、既にかかなりの積雪とのこと、ここ江差ではまだまだほとんど積雪はない。改めて広大な北海道の大きさを感じさせられる。また、七十二候では、「熊蟄穴」にあたるそうである。一時期ほどではないが、未だに熊出没のニュースが報道される。本校においても熊目撃による注意喚起のメールは、今年5月から22回にもなった。



実は、私も10月25日にはじめて野生の熊を目撃した。それも私の住む公宅の駐車場。駐車場と言っても玄関を出た目の前である。1m位の子熊だが、夜に、バリバリ…クルミの実を食べに来ていた。前の週が、ちょうど全連小東京大会等で、ほぼ一週間

公宅を留守にしていたので、どうやら夜な夜な…落ちたクルミの実を食べに来ていたようである。その後は一度、現れたきりで、現在は出没していない。自然が豊かと言えばそれまでであるが、さすがに警察へ通報し、教育委員会にも報告した事案である。今年の夏の異常な暑さに加え、各地での熊の出没…。道教委をはじめ、各自治体においても次年度に向けての動きが活発化している。

私たち校長は、様々にアンテナを張りめぐらせ、児童や教職員の安全・安心を第一とした学校経営と適切な教育課程の管理及び評価・改善に努めなければならない。

前回の第3回理事研修会は、渡島・北斗大会の前日であり、大橋実行委員長はじめ、渡島中小校長会の皆様による準備が万全に整った中、また、各地区理事の皆様にとっても、翌日からの各分科会に向けて地区校長会を代表し様々な思いの中で、参加された研修会であった。

さて、第4回理事研修会では、今年度の活動における中間報告と次年度に向けての方向性が徐々に見

えてくる場である。それでは、ただ今から、北海道小学校長会第4回理事研修会を開催する。

2 会長挨拶 …………… 森田 智也 会長

本日は、数えて第4回の理事研修会であり、第4回目は毎年のものであるが、次年度に向けての内容が入り始める。今回もそのとおりであるが、お二人の方を委嘱及びご紹介をさせていただく。お一人目は、監査委員長である。監査委員長には千歳市立千歳小学校の山村健史校長である。お二人目は、研究指名理事である。次年度の空知・岩見沢大会の実行委員会と道小を結ぶ役員となる。研究指名理事には、岩見沢市立日の出小学校の山本あさ子校長である。お二人の校長には、よろしく願いたい。



さて、会長資料よりお話しする。資料2、植村会長の挨拶と解説について文字起こしをしてある。

常任理事会の冒頭、対策調研に関わるアンケートについてお話があった。今年度、紙からWebに切り替えたということで、回収率は去年の予想では90%行くか行かないかという心配があった。結果は96%であった。これは大成功と言えるが、誤送信してしまい、ダブルカウントしてしまったものもあるようで、回収の際にどのような網をかけるかが、対策部会では話題になっていた。

資料の中に検証の大切さという話がある。様々な対策を打って、変えるべきことを変えるということが学校ではあり得ると思う。変えたはよいが、効果があるのかという検証をしないと、説得力をもった改革にならないということをお話しされていた。

資料7頁、東京都教育委員会の取組として、健康的な職場環境実現するための宣言が出されるという話を聞いた。都の教育委員会が直接都民に語りかけることで、私たちの活動が誤解されなくなるといった事例である。以前も、学校の働き方改革を進めるにあたって、都教委がチラシを作ったという話をしたが、「予算はないが、できることは言ってほしい。」と言ってできたのが働き方改革のチラシである。今回はその延長上にあると言ってよいと思うが、教職員がやりがいをもって仕事をする。さらには、ライフワークバランスの実現を訴えている。背景には、中教審の審議の様子が影響していると考えられるが、人材確保という点にも配慮されていると感じる。

12頁、下線を引いたところであるが、米子での地方大会の講演の様子である。時間の関係で読まないが、皆様方にも読んでいただければと思い下線を引いた。

次の頁は、参考資料である。前回の常任理事会の文字起こしである。今回の植村会長挨拶と合わせて読んでいただくと、中教審の審議の様子がよく分かるかと思う。

資料3、12月8日(金)に、小学校教育の充実・改善に関する要望書を15頁以降にある国会議員の方へ届けてきた。内容は、国庫負担1/2の回復、人

材不足への対応、指導時数削減などとなっている。私は、表にある議員の事務所にお伺いした。皆様のご存じの通り、国会が非常に難しい状況の中ではあるが、柴山元文科大臣が在室されており、私どもを応接室へ案内いただいた。私どもの話を聞いてくださり、これからの施策についてお話を伺うことができた。

資料4は、第246回理事会である。2日日程となっている。副会長の皆様は、準備が必要となるので、対応をお願いしたい。なお、皇居特別参観が予定されていることを申し添える。

資料6は、徳島大会の報告についてである。後ほど、関係する地区についてはご連絡させていただく。

資料7は、その次の福岡大会の大綱案であるが、箱物については決まってきたり、今は副主題の修正を全連小と実行委員会とが詰めているところである。私も議論に参加しているが、結構厳しいものがあると感じている。何が厳しいのかと言うと、以前より、その地区で当たり前に使われている言葉が、全国的には当たり前でないということがあり、それを別の言葉で説明する難しさがあるということである。北海道もすぐに取りかかる必要があるが、結構ハードルは高そうである。なお、ここは別のところで出た話であるが、全国大会の実施について、現在、参加費が弁当込みで8,000円となっている。しかし、昨今様々なものが値上がりしている。東京大会は、弁当なしの7,000円であった。分科会の会場がホテルの場合、弁当の持ち込みができない。実際、今、それなりの弁当を頼むと、1,500円では厳しい。東京方式、「各自、それぞれ食べてください。」という方法が可能かということ、これも難しいのではないかと。また、分科会の数はこれが適正なのかという問題がある。全国大会の参加期待数は、開催地以外は10%である。校長の数は、18,000校とすると、ざっくり言って1,800人となる。しかし現在は、2,200~2,300名ほど集めないと運営は厳しくなっている。分科会場が減るとすればそれだけ経費はかからない。ただし、研究大会は、質を落とさないということだけは絶対に守らなければならない。

「～をやめればよい」というようなものではない。私は、このような話を全連小の会議でも6月頃から小出しにしてきた。そこで、全国大会の在り方検討委員会を立ち上げる方向で話が向かっている。

資料8、次年度の教育海外視察についてである。これについてはまだ最終決定ではない。頭出し情報であるので、ご注意願いたい。この事業は、2年おきであるが、今年度、実施できなかったのも、次年度の実施に向けて準備している。行き先はニュージーランドである。これ以上の経費、食費を含め、かからないと聞いている。順番で行くと4ブロックが継続して残っている。費用は65万円程度であるが、全連小より15万程度の補助が出る。

最後となるが、今日が今年最後の顔合わせの機会となる。まだまだ、令和5年度は続くが、令和5年の皆様方のご協力に感謝いたし、少し早いですが、ここでお別れではないが、お伝えしておきたいと思う。皆様方、よいお年をお迎えいただきたい。

3 議長選出 …………… 齋藤 超 副会長



4 報 告

(1)全連小第245回理事会の報告

…………… 松本 伸彦 副会長



私から10月18日に東京丸の内の東京會館を会場に開催された全連小第245回理事会について報告する。

今年度は、4年ぶりに全国から会員が参集して開催される全連小東京大会に加えて、全連小75周年記念式典の大きな節目の年の開催となった。

全連小のこれまでの歴史と伝統、そして、全国の会員のつながりを紡ぐ貴重な機会であり、緊張感のある中にも温かい記念式典にしたい、そして、会員の活気あふれる研究協議会にしたいという意識が高まる理事会となった。

植村会長の挨拶では、「①つながり ②学び ③国に声を届ける」をキーワードに全連小活動の価値と意義についての確認がされた。特に「国に声を届ける」については、これまでの要望活動の成果として、1人1台端末の配備、小学校全学年35人学級の実現、教員免許更新制の発展的解消等についての話があった。

次に、5月22日に出された中教審諮問「令和の日本型学校教育を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」と「初等中等教育分科会 質の高い教師の確保特別部会」の検討内容を中心に説明があった。特に8月28日に出された中教審「緊急提言」に基づき、学校・教師が担う業務の適正化を一層推進することが重要であり、授業時数の計画の見直し、行事の精選・重点化、保護者との連絡手段のデジタル化など、学校ができることを直ちに行うという考え方が大切であるということが話された。

報告事項では、会務や会計についての報告、次年度全連小徳島大会の北海道への期待数が101名であることが示された。

次に、7月に行われた関係省庁に対する要望活動について、「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算についての要望書」に基づき、①義務教育の質を高める教育費の増額措置をはじめとする10項目の要望事項についての説明があった。

震災等災害被災県からの報告は、今回は岩手県より現状の説明があった。

理事会の終了後、パレスホテル東京に会場を移して全連小75周年記念祝賀会・東京大会歓迎レセプ

ションが開催された。私のテーブルには、岩手、東京、千葉、山梨、静岡、広島の校長がおり、様々な都道府県の状態を知ることができ、良い情報交換ができた。

以上、全連小第245回理事会の報告である。

(2)教育情報について …………… 末原 恵蔵 事務局長

教育情報12月号をご覧いただきたい。今回は11月30日から12月12日までの記事について記載している。



新たな研修制度に関わる話題である。3頁「研修情報を登録・自動記録 新システム 4月稼働へ 年明けに説明動画公開」の記事である。文科省は12月4日の中教審の教員養成部会で、開発中の研修受講履歴記録システムと教員研修プラットフォームの概要を説明した。この文科省が開発する研修受講履歴記録システムと教員研修プラットフォームは、効果的・効率的な研修を実施するため新たに開発するもので、当初は5年度途中からの試行を目指していたが、試行時期は設けずに6年度から導入する方針を固めたとのことである。主な機能は、①研修動画コンテンツ・研修情報の登録 ②研修の推薦等手続き ③研修の受講 ④研修受講履歴の作成・閲覧の4点である。教育委員会が設定する成果確認の結果に応じて修了判定を行い、成果確認を経て研修の受講履歴が自動作成される。システム外で受講した自主研修に関しては教員が手動で作成する。教育委員会・校長の権限に応じて研修受講履歴を閲覧することができる。教員は自身の研修履歴を確認し、これを手掛かりとして校長などの管理職が教員と対話し、受講奨励を行うことになる。運用は教職員支援機構が行うが、運用費用はシステムを導入する教育委員会が負担する。このシステムを利用する教育委員会においては3月に研修情報などを登録し、6年度の導入に備えることとなる。

5頁「日本の読解力、3位に上昇 22年 OECD 調査」の記事である。経済協力開発機構(OECD)は12月5日、昨年実施した学習到達度調査(PISA)の結果を公表した。日本は読解力が3位となり、前回4年前の15位から大幅に上昇し、平均得点も12点上がった。科学的応用力は5位から2位に、数学的応用力は6位から5位に上がり、国際的なトップ水準を維持した。新型コロナウイルス流行の影響を受けた生徒らが対象の調査となっており、日本は高校1年生が参加している。文部科学省は、今回の得点向上の要因として、「休校期間が他国より短く、学習機会が確保されたことが影響した可能性がある」と分析している。また、探究的な学習や対話型授業の拡大も効果があった。話合いの授業を求める新しい学習指導要領で授業改善が進んだことや、学校のデジタル環境整備により生徒がパソコン形式の出題に慣れたことも挙げている。ただ、順位は上がっても、結果を見る上で気を付けるべき点がいくつかあると

専門家は指摘している。6頁「順位は上昇、学校への「所属感」向上でも… 専門家が読むPISA」の記事である。

PISAに詳しい京大院の松下教授は次のように語っている。「今回の調査は、コロナ禍をはさんだ前回と今回の、数学の成績、格差、学校への所属感の変化を分析している。この三つの側面すべてが安定したり向上したりしている国は、日本、韓国、リトアニア、台湾の4カ国・地域しかない。これらはコロナ禍でも『学びを止めない』と日本の先生や子どもたちが頑張った成果だと思う。ただ、結果を見る上で気を付けるべき点がある。まず順位については、他の国々の得点が大きく低下したため、相対的に上がったと見るべきだろう。今回の調査で、コロナ禍のために3か月以上休校したと回答した生徒の割合は、OECD平均が50.3%に対して、日本は15.5%と、コロナ禍の影響が日本では他国より弱かった可能性がある。学習の自信も、自ら学ぶ力も弱い。日本の生徒は従来、学習への自信が低いとされてきたが、今回の調査でも相変わらずである。学校が再び休校になった場合に『自分でオンラインの学習リソースを探す』などの『自律学習』を行う自信も、OECD加盟国の中で最下位となっている。調査に限界があることも付け加えておきたい。調査対象に通信制高校の生徒や、学校に来ていない不登校生たちが含まれていないのである。通信制高校の生徒は、高校の全生徒数の1割近くを占めるまでになっている。また、高校の不登校の生徒は2年前と比べて4割も増えている。これらの生徒を除外した調査は、日本の高校生全体の実態をふまえているとは言えないだろう。」

松下教授は最後にこのように語っている。「各国の教育政策は、PISAが発表されるごとに、順位の下上に振り回されてきた。PISAで吟味したいのは、世界各国の教育政策やその結果はどう動いているか、日本の弱点は何か、調査自身のもつ問題はどこにあるかである。PISAに翻弄されるのではなく、『飼いならず』姿勢をもちたい。」とのことである。

最後はメジャーリーガーの大谷選手に関わる話題である。15頁「大谷選手寄贈のグラブ、どう使う？道内小学校には25日から送付」の記事である。大谷選手から寄贈されるグラブについて、道内では12月25日から来年3月20日にかけて、各市町村教委を通じて送付される予定となっている。心待ちにする児童がいる一方、グラブは学校の大小を問わず各校三つずつなので学校現場では活用策の模索が始まっている。小規模校では、「早速キャッチボールに使いたい」と感謝の声があるようだが、一方で活用策に頭を悩ませるのは大規模校である。「校内に展示したり、学級ごとに順番で見られるようにしたりして、全員が触れる機会をつくる」と考えているところや「盗まれることも想定される」として管理対策の検討も始めた学校もある。

時間の関係でここまでとする。他の記事については、時間があるときにぜひお読みいただきたい。

(3) 会務報告・各部の活動について

① 会務報告 …… 丹野 靖彦 事務局次長

② 各部の活動報告

【経営部】 …… 渡辺 弘行 経営部長

第3回理事研修会以降の活動の経過と今後の予定について4点報告する。

1点目は、本年度の「地区別教育経営研究会」についてである。7月26日の宗谷地区から始まり11月6日の旭川地区小学校を最後に、全ての地区が終了した。開催された地区からは、教育の今日的課題を中心に、「校長の職能向上」に向けた有意義な研究会となったという報告を受けている。各地区の担当の皆様改めて感謝申し上げる。各地区に出向いた道小・道中事務局幹事が中心となり報告書を作成し、まとめたものが「令和5年度地区別教育経営研究会（概要）一覧」である。なお、地区の担当の校長先生にお願いしていた「地区別教育研究会のまとめ」については、道小ホームページに掲載しているので、ご覧いただきたい。

2点目は、「学校経営の資料」についてである。前回の理事研でもお知らせしたが、7月初旬に各地区に発送した。この資料については、より活用しやすくなるよう毎年見直しを行い、内容の充実を図って参る。

3点目は、「法制研究集録第54集」についてである。道小が担当で、現在、原稿を校正中である。今年度もデータ化してホームページに掲載する予定である。来年2月の完成に向け編集作業を進めている。

4点目は、「経営部本年度の活動報告」と「令和6年度の経営部の活動計画案作成」についてである。本日午後に行われる経営部会で今年度の反省を行う。

【研修部】 …… 小野 敦司 研修部長

研修部から、前回の理事研修会以降の活動について、5点報告する。

1点目は、「第66回北海道小校長会教育研究渡島・北斗大会」についてである。

本大会は、4年ぶりの完全会同により開催された。参加者の皆さんの笑顔があふれる和気藹々とした雰囲気の中、熱の入った議論がかわされ、会同のよさを実感した大会となった。渡島・北斗大会実行委員会の大橋 宏朗委員長、西田 浩人事務局長をはじめ、渡島小中学校長会の皆様方の成功へ導く熱意とご尽力に、改めて感謝と敬意を表する次第である。また、様々な形でご協力いただいた理事の皆様にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

研究集録である「小学校教育第60号」は、12月



中に完成し、1月上旬にそれぞれの地区に発送する予定である。計画よりも少し遅れての発送となりご迷惑をおかけするが、各地区の会員の皆様への配付について、ご協力をお願いしたい。

2点目は、次年度開催予定となっている、第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会についてである。大会の概要等について、この後の協議の中で、山本 あさ子研究指名理事よりご説明をいただくことになっている。今後、空知・岩見沢大会実行委員会の皆様と連携を図りながら、大会の成功に向け業務を進めてまいりたいと思う。

3点目は、全連小東京大会についてである。今年度は、4年ぶりにフルスペックの参集型で開催された。また、全連小75周年記念式典もあり、大きな節目の研究協議会となった。その中で、滝川市立滝川第一小学校の牧野 良信校長と、留萌市立港北小学校の村元 隆一校長が、地区をあげて取り組んでいただいた研究発表を、それぞれの分科会で行っていただいた。厚くお礼申し上げる。

4点目は、「教育改革等に関する調査」についてである。3月には調査結果が全連小の「研究紀要」の冊子となってお手元に届くことになっている。是非、ご活用いただきたい。

最後5点目は、「地区研究活動」についてである。各地区に依頼した原稿を期日までに送っていただき、お礼申し上げます。確認作業が終わり、来週には北海道小学校長会のホームページの「地区研究活動」に掲載する予定である。ご協力に感謝申し上げます。

以上、研修部からの活動経過報告とさせていただきます。

【対策部】 …………… 近藤 康 対策部長

現在、対策部においては、今年度の活動を振り返り、次年度に向けて計画を立てているところである。その中から、次年度に向けて計画していることについて2点お知らせする。



1点目は、令和6年度「全道会長研修会」の共通話題についてである。お手元の文書「令和6年度 全道会長研修会の話集約について」をご覧ください。この研修会は、様々な教育課題が山積している中、各地区の課題を交流し、その解決に向けて話し合うことを目的として行われているものである。ここで話し合われる共通話題については、全道各地区のご意見を伺いながら設定していく。

共通話題の集約は、本日の資料の中に「返答いただく内容」という文書があるので、この様式に従い、協議したい話題を1～3項目記入し、令和6年1月26日（金）までに対策部 下山副部長にメールでご返答いただきたい。なお、この様式については、近日中に道小ホームページにアップするので、ご活用いただきたい。来年度の会長研修会は、6月25日（火）にWeb開催で行う予定である。共通話題については、次年度の対策部が各地区の集計を基に原案

を考え、事務局において最終的に決定させていただく。また、より各地区の実態や声を聞くことができる会長研修会を目指して、当日の流れについても更に工夫していけたらと考えている。

2点目は、全道調査である。この調査については、様々に変化する教育情勢も見据えながら新たな調査も範疇に入れて検討し、令和5年度は「広域人事に関する調査」「期限付教諭配置状況調査」「退職校長動向等調査」の三つを実施した。令和6年度、「広域人事に関する調査」は継続し、これまでに課題であった部分のその後の経緯等を追うことと、実際に広域人事を経た方々が、その後戻られてどう貢献しているかを更に実証的に検証していく。また、「期限付教諭配置状況調査」についても、4月段階における全道各地の配置・未配置の現状を明らかにして状況の改善につなげていきたいと考えている。「退職校長動向等調査」については、役職定年及び定年引上げに伴い、内容・項目等を検討し、校長を退いた後の雇用状況や処遇等、役職定年時において調査を行う「役職定年校長の動向に係るアンケート調査」として継続する。そして、要望や協力依頼等での活用も含め、今後の処遇改善の資料となるよう調査を実施していきたいと考えている。

今後も全道会長研修会の共通話題の集約をはじめ、全道調査などにおいて、ご協力いただくことになるが、よろしくお祈りしたい。

【情報部】 …………… 近藤 大作 情報部長

前回の理事研より今日に至るまでの活動について、5点報告する。



1点目は、会報「教育北海道」333号についてである。333号は12月1日に原稿を締め切り、ただ今、編集作業を行っている。何点かの未着について対応しながら、来年3月の発行に向け取り組んでいるところである。今後、退任される役員、監査委員の方々に「勇退の言葉」をお寄せいただくべくご案内するので、執筆にご協力いただきたい。

2点目は、同じく会報「教育北海道」334号についてである。こちらは来年度の発行であるが、今年度中に執筆者一覧を作成し、スムーズな年度移行により執筆者の混乱を避けたいと考えている。なお、資料の次頁と次々頁に執筆者をまとめたのでご覧いただきたい。334号の一覧について、空欄になっている部分は、まだ執筆者の報告を受けていない地区となっている。

3点目は、道小情報4号についてである。これは本日のこの第4回理事会を特集する。閉会后、編集に入り、来年1月を目途に配信する。

4点目は、道教委との意見交流会、各課懇談会を特集した「道小情報・道中だより」特別号についてである。こちらは、ほぼ編集が終わり、最終校正に移っている。こちらも来年初頭の発行に向け進めており、紙媒体にて全道の校長にお届けする。

最後、5点目は、全連小広報発行の機関誌についてである。既にお手元に届いた地区があるかもしれないが、「小学校時報」12月号に会員の声として、旭川市立啓明小学校の清水校長が「東京大会 印象記」として寄稿されているので、ご覧いただきたい。また、隔年で発刊される「特色ある研究校便覧 令和6・7年度版」への執筆に、6地区の校長会の皆様にご協力いただき、過日、無事出稿した。

情報部では今後とも、本会活動の様子発信や全道の校長が交流できる場を提供してまいる。今後とも、よろしくお願ひしたい。

(4) 第66回道小教育研究渡島・北斗大会

…………… 西田 浩人 指名理事

9月8日、9日に開催した道小教育研究渡島・北斗大会から早いもので3か月が経過した。開催にあたり小事務局・研修部の皆様に導いていただきながら、また、全道各理事の皆様、各地区校長会の皆様のお力添えをいただきながら、主管校長会としての役割を何とか果たすことができたと思っている。



大会後のアンケートについては、参加者の6割弱、258名の参加者から回答をいただいた。ほとんどの方が「会同のよさ」や「分科会の充実」に触れており、私たち主管校長会にも感謝や労いの言葉を頂戴している。参加者の声の中には、会同することのよさに触れた上で、現地におけるオンラインの効果的な活用、配付資料のペーパーレス化、全体会（開会式）の簡素化等に必要性を感じている校長が少なくないと感じた。また、更なる分科会の充実を求め、協議時間を確保する方法等について、具体案を示される校長もいた。近い将来を見据え、道小研究大会の更なる充実・発展を求める改善の声は、来年度の主管である空知・岩見沢大会実行委員会の皆様に、10月2日の道小教育研究大会 運営研修会で引き継いでいる。渡島・北斗大会は、4年ぶりに、会同行うよさを実感できる大会となった一方で、今後の道小教育研究大会が持続可能なものになるよう、その在り方を考えるきっかけとなる大会にもなったように感じている。

来年度の空知・岩見沢大会、令和7年度の根室大会が、私たち校長の職能向上と本道教育の振興を目的に、更に充実するよう渡島小中学校長会もできることがあれば、協力を惜しまない気持ちでいっぱいであるので、声を掛けていただきたいと思っている。

(5) 第75回全連小東京大会報告

…………… 稲上 敏男 研修部副部長

10月19日、20日の2日間に渡って開催された、第75回全連小東京大会について報告する。4年ぶりのフルスペックの参集型で開催された東京大会は、私がこれまで経験してきた大会とは違うことも多く、驚きの連続であった。

最初は、研修7頁である。東京大会の全体会や、75周年記念式典に参加した方からの感想や報告が載っている。

最初に全体会について報告する。全体会の会場は東京国際フォーラムであった。今年は開会式の前に、全連小75周年記念式典が開かれ、その中で感謝状を受け取る方も会場に入っていたので、会場には約3,000人が入っていた。私は2階席であったが、3,000人が入っていても座席には余裕があり、混雑を全く感じさせないくらい大きな会場で、その会場の大きさにまず驚いた。しかし、それ以上に驚いたのが、ご来賓の方々である。全連小75周年記念式典でご来賓として挨拶をされたのが、盛山文部科学大臣ご本人であった。そして、盛山文部科学大臣から全国の校長に向けて、「それぞれの学校の責任者として重責を担い、リーダーシップを発揮されている校長の皆様におかれましては、75周年という節目の年に、決意を新たなものとし、今後とも国民の期待と信頼にこたえ、我が国の小学校教育のより一層の充実・発展のためにご活躍されることを期待しています。」というメッセージが送られ、本当にこの場にいることができたと感じた。



また、その後の開会式では、小池百合子東京都知事が、ビデオメッセージではあったが、「力を合わせて、チルドレンファーストの社会を築いていきましょう。」と私たちに語り掛けてくださった。私たちは、日本の将来を担う子どもたちを育てているということを改めて胸に刻んだところである。

2日目のシンポジウムは、キャスターの小西美穂さん、会社経営者のハロルド・ジョージ・メイさんによる講演と、会社の社長兼CEOの岡田大士郎さんがコーディネートする中でのパネルディスカッションが行われた。学校現場とは違う視点で物事を見ている方のお話は、教員の視点では気付くことのできない様々なヒントを得る、とても貴重な時間であった。特に、リーダーの言葉や姿、熱意の大切さを改めて考えることができた。

続いて、資料を戻り、研修1頁である。ここからは各分科会に参加した方の声載っている。次に1日目の全体会終了後の分科会場への移動から、分科会について報告する。

1日目の全体会が終わってから分科会場に移動した。分科会開始までの時間は1時間45分。この間に、各自で昼食をとり、分科会場に移動するというスタイルも驚きであった。しかし、さすが東京である。食べるころはたくさんあるし、移動のための電車もすぐに来る。ゆっくり昼食をとっても、分科会場には30分前に到着できた。大会実行委員会としては、弁当を用意しなくていいというのは、負担が大きく減っていい方法だと思ったが、果たして、これを他の地区でもできるのか、3年後の北海道大会でもできるのか、というところは、今後考えていかなければならないと感じた。

各分科会場には、150人から200人が集まり、6人ずつのグループがつけられていた。グループの数は20～30あるので、どのように全体協議を行うのかがポイントになる。

分科会では、2本の提言が発表された。最初に、全国ブロックが担当する視点1に関する提言があり、質問をとった後、すぐにグループ討議に入った。グループ討議では、まず、それぞれが赤い付箋に視点1に関する内容の課題、青い付箋にその解決策を書き、その内容について交流していった。そして、グループ内で話題になった言葉を記録の先生が、スマホを使って送ると、全グループから送られてきたキーワードがテキストマイニングによってまとめられていき、出てきたキーワードについて全体協議で膨らませていくという方法であった。この方法も驚きのポイントであった。

視点1の協議が終わると、関東甲信越ブロックが担当する視点2に関する提言があり、同じ流れで協議が進められた。少し残念だったのは、視点2に関する提言のはずが、主に視点1の内容について語られている分科会や、校長会の取組というよりは、一つの学校の取組発表になっている分科会があったことである。充実した分科会にしていくためには、各地区の校長会の取組を、視点に合わせて提言していくということが大切であることを改めて感じた。

北海道からの2本の提言は、管内校長会の取組を視点を沿ってまとめ、プレゼンを使って分かりやすく説明し、成果と課題を明らかにしている、お手本のような素晴らしい提言だったと感じている。空知地区、留萌地区の皆様改めて感謝申し上げる。

最後に研修9頁である。今年の東京大会を受け、令和8年の北海道大会に向けて、私たちは何を大切にしていくとよいのかをまとめてみた。一つ目は、「分科会の充実こそが最大のおもてなし」の精神を引き継いでいくということである。全国から集まった各地区の校長の様々な実践を交流し、新たな気付きを持ち帰るためには、やはり分科会が充実していることが重要である。そのために、今、道小の研究大会でも大事にしている、発表内容の充実、参画型の分科会の工夫、分科会の討議内容を見やすくする工夫（視覚化）ということ、今後も継続して大事にしていきたいと感じた。二つ目は、新たな視点で考えることができるシンポジウムである。東京大会のシンポジウムは、シンポジストやコーディネーターの経営に対する考え方、人材育成の進め方、熱量、伝え方など、教師の視点では気付けにくいヒントを与えてくださり、すごく心に響いた。令和8年の北海道大会で、シンポジストにふさわしいと思われる方をご存じであれば、是非ご紹介いただきたい。以上、東京大会の報告とする。

(6) 令和6年度以降の道小研究関連分

…………… 稲上 敏男 研修部副部長

資料の研修部10頁、令和8年度の北海道大会までの研究関連分担については、令和元年度の理事研修会において提案、承認されている。現在のところ、変更を要するような事情が発生していないことか

ら、この資料に掲載している計画のとおり実施していただくことになるので、ご確認いただき、各地区での準備をよろしくお願ひしたい。なお、今後、来年度の全連小徳島大会の次となる、再来年度の福岡大会の提言発表割当によっては、変更が生じる場合もあるのでご承知おきいただきたい。福岡大会の担当分科会については、年が明けてからお伝えできる予定である。

(7) 道教委・教育局への要望内容の集約について

(8) 北海道へき地・複式教育研究連盟(へき・複連)の活動や要望について

…………… 小野田 年克 指名理事

道へき・複連の今年度の活動について、資料をもとにポイントを絞ってお話をさせていただきました。

資料1頁には、私たちの活動の目的や活動の内容等を記している。本道のへき地・複式教育の振興に寄与することを目指して、「へき地性」「小規模性」「複式形態」の三つの特性を生かした教育の充実を図る研究活動をはじめとして、記載の内容に取り組んでいる。

活動概要では、今年度の具体的な活動を記しているが、2点について説明させていただく。

まず、第72回全道へき地複式教育研究大会胆振大会ファイナルステージを9月13日から2日間開催した。コロナ禍の中で培った様々な研修方法、授業手腕のノウハウを生かし、研究協議では、現地での会合によるグループ討議に加え、オンラインでのグループ討議も行い、より多くの先生方の研修参加を可能とすることができた。また、昨年のファーストステージからの2年間の継続した取組により、研究内容の深まりとICT・デジタル教材の利活用による授業改善や配信システムの構築、そして同じような課題に取り組む上で、日常的に声をかけあえる仲間意識の向上をみることもできた。

次に活動概要のICT研修についてである。全国へき地教育研究連盟は、小学校も中学校もどちらも加盟している団体であり、全国にネットワークがあることから、文科省からの指示により令和3年度からこのような研修を行っている。「令和の日本型学校教育」には、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものである、とされているが、まだまだ学校や地域によって利活用の格差があるため、文科省初等中等教育局長よりICT活用の裾野を広げるようにとの指示のもとに行っているものである。全へき連が主催となっているが、へき地・複式校だけではなく、全ての小中学校を対象としており、今年度の開催にあたっては全連小、全日中を通して発信させていただき、これまで3回実施した。今後、期日や内容の詳細は未定であるが「デジタル教科書」に関する研修を実施する方向で調整している。このICT研修は、次年度も全国の小中学校を対象に開催



を計画中である。各学校の皆様の参加に向けてご配慮いただきたく、よろしく願いたい。

(9) 北海道特別支援学級設置学校長協会(道特協)の活動や要望について

…………… 青田 佳寿紀 指名理事

道特協からは、3点報告する。

1点目として、道特協第48回経営研究会後志大会は、共和町生涯学習センターをメイン会場とし、10月27日(金)オンラインで開催された。研究紀要は、事前に作成し、参加者へ郵送した。どの分科会も、司会の校長の進め方がよく、よい意見交流が行われた。開催地区後志地区をはじめ、提言された室蘭地区、オホーツク地区、旭川地区、檜山地区の皆様へ、深く感謝申し上げる。



2点目として、全特協・文科省に関わることについてお話しする。国の特別支援教育に関わる動きが活性化していることについては、皆様も実感していると思う。令和5年3月に文科省から出された「通常の学級に在籍する障害のある児童への支援の在り方に関する検討会議報告」では、①校内支援体制の充実、②通級による指導の充実、③特別支援学校のセンター的機能の充実、④インクルーシブな学校運営モデルの創設があげられている。その中で、通級による指導の充実にあたり国の動向として、次のことが挙げられる。

- ・通常の学級 → 通級による指導 → 特別支援学級といった段階的な支援が重要であること。もっと言えば、通級利用が望ましいと考えられる児童生徒が、通級での指導を受けられていない現状があること
- ・自校通級、巡回指導の設置拡充と通級指導担当教諭の専門性の向上
- ・採用後10年以内に特別支援教育を複数年経験させること
- ・地域内で知見のある教員が中核となり、経験の浅い教員を支援する体制整備

これら国の動向を受けて、北海道でも地理的条件や地域の実情等を踏まえた新たな巡回指導の方法や環境整備、巡回指導教員の育成について検証、実証を行う予定と聞いている。これによって、通級による指導を必要とする全ての児童生徒が指導を受けられ、柔軟な学びの場の変更が可能な体制の整備が進められると考える。同時に、通級指導担当教員の専門性の向上に加えて、通級指導担任との懇談、交流を通して、通常学級担任の特別支援教育に関わる理解の促進につながり、特別支援教育に関する経験緒拡大に寄与するものと考えられる。

3点目は今後のこととして、校内支援体制の充実の中核となる校内委員会の機能強化には、専門的な知識を有する教員が必ずしもいないことから、適切な人材配置などの行政的な支援をお願いしたいと考える。また、特別支援教育コーディネーターが専門

的な見地を有していないこともあることから、特別支援学校との人事交流を進めること、専任の特別支援教育コーディネーターを配置し、研修や保護者対応を進めること、教員定数の改善や教員養成大学との連携した取組を進めることを、要望していきたいと考えている。

(10) 令和5年度 第1回運営委員研修会<中間監査報告>について

…………… 田邊 芳明 会計理事

令和5年度 北海道小学校長会一般会計、並びに特別会計の9月末日における収支報告をさせていただきます。時間が限られているので、要点のみ説明させていただきます。



理事研資料6頁、一般会計中間決算書、収入の部である。

- ・項1 会費は、各地区校長会から納入された前期分と一部後期分の合計金額となっている。
 - ・項4 雑収入目の2借入金は、1,200万円となっているが、備考にあるように会費が納入されるまでの間に運転資金として最低限の必要な金額を、特別会計運営積立金から借入れている。会費が完納される1月頃に、この1,200万円は運営積立金に返戻する方法をとっている。
- 次に支出の部である。なお、備考欄の強調文字は未執行のものである。
- ・項1 研究大会費目の1、大会運営費として300万円支出している。
 - ・目の2 旅費は、大会に関わる打合せや下見等で支出している。なお、大会運営研修会の旅費もここに該当するが、10月に開催したので、反映されていない。
 - ・目の4 雑費は、分科会で使用した事務用品等の物品購入代として支出している。また、この後は、全国大会準備金積立として、1会員500円の合計47万7,500円を支出する予定である。
 - ・項2 研究調査費目の1旅費は、地教研への派遣旅費であるが、今年度もオンラインでの開催地区があったことから、予算よりも少ない支出となっている。
 - ・項3 研究成果刊行費、研究成果刊行費については、備考欄の強調文字が未執行分である。
 - ・項4 対策活動費、平成29年度に札幌市が北海道から税源移譲されたことに伴い、対策活動に見合う経費を想定して、92万円を札幌市小学校長会に計上している。
 - ・項5 事務局費、備考の種目によりほぼ予定どおり支出されている。
 - ・目の2 会議費は、昨年度までのようなホテルの利用を極力減らし、今年度の事務局研修会等は道小事務所で行っていることから、昨年度よりも支出が減っている。
 - ・目の12 慶弔費の中の退職記念品の執行は、1月の予定となっている。

- ・目の13 雑費は、広告料等に支出している。特別会計の運営積立金へ繰り入れも予定している。次に(2)特別会計、理事研資料7頁についてである。
 - ・項1 運営積立金、300万円の収入は、昨年度、渡島・北斗大会実行委員会に支出した大会運営費の返戻分である。支出は、先ほど述べたように、4月に一般会計へ1,200万円を運営資金として貸し出している。
 - ・地区研修補助金としては、136万円支出した。
 - ・来年度の空知・岩見沢大会の運営費として300万円支出している。
 - ・項2 全連小基金、収入としては、繰越金と令和5年度の新会員154名(義務教育学校5名を含む)による拠出金である。
 - ・項3 退職積立金は、事務所の職員退職金のための積立である。年度末に積み立てる予定である。
 - ・項4 雑収入、地区校長会活性化事業①は、地区校長会20地区に各地区1万円ずつ「研究実践交流事業」として支出している。地区校長会活性化事業②は「全連小 海外教育事情視察」が今年度中止となったので、参加補助費は0円となっている。
 - ・項5 道小基金、収入としては、繰越金と令和5年度の採用校長(義務教育学校5名を含む154名)の拠出金となっている。支出としては、空知・岩見沢大会の準備金として50万円となっている。
 - ・項6 全国大会準備金は、年毎に開催される全連小北海道大会の準備金として積み立てているものである。今年度の積立は、年度末に行う。
- 以上、一般会計並びに特別会計の中間決算報告とする。

…………… 山村 健史 監査委員長

令和5年度の会計中間監査結果について報告する。

令和5年10月31日、北海道小学校長会事務所において第1回運営委員研修会を開催した。田邊会計理事から一般会計及び特別会計の中間決算報告を受けた後、5名の監査委員で、令和5年度 北海道小学校長会 一般会計及び特別会計について、会計帳簿、預金通帳、領収書綴り、残高証明書等を照らし合わせ、令和5年9月末現在における会計監査を行った。



その結果、収支について誤りなく、正確に処理されていることを認め、会計帳簿に押印した。なお、関係証憑、諸帳簿、書類等がよく整備されており、誤りのないことも確認した。

以上、会計中間監査結果の報告とさせていただきます。

(11) 全連小対策・調研担当者連絡協議会について

…………… 末原 恵蔵 事務局長

…………… 西村 裕子 事務局次長

全連小が開催した令和5年度の三地区対策担当者連絡協議会、及び、三地区調研担当者連絡協議会について報告する。

まず、対策担当者連絡協議会についてである。対策担当者連絡協議会の今年度の協議題は、「働き方改革の進捗状況と課題について」と「教員不足、教員の量の確保と質の向上について」であった。資料1、2頁は、北海道が全連小に提出した、協議題1と2に関する資料が掲載されている。資料の3頁の協議題1に関わる全国の状況については、全連小の松原対策部長がまとめてくださったものである。働き方改革に関わる環境整備については、出退勤管理や校務支援ソフト、留守番電話などの整備が進んでいる一方で、自治体及び学校間での格差が課題となっている。また、システムを導入さえすれば働き方改革になるわけではなく、効果検証やシステムの統一などの課題も明らかになった。効果的な取組事例として、学校行事の見直しやメール配信システムの導入等の交流もあったが、事例は出尽くしてきている感があり、学校の努力だけでは限界を感じており、国による抜本的な定数改善や持ち時間数の削減等が必要であると話題に挙がった。

協議題2に関わる状況については、4頁の記載のとおり、次のようにまとめられている。

- ・処遇改善では、単に給料が上がるだけではなく、休暇を取りやすい環境や授業以外の負担を減らすことを考える必要がある。
- ・処遇改善よりも定数改善が優先である。
- ・標準授業時数を減らすことで持ち時数を減らし、持ち時数にあった指導内容を実現してほしい。
- ・再任用で給料が下がることが当たり前になっているが、再任用の教員を確保するためには、65歳まで給料が維持される必要がある。

協議題1と2のいずれも、北海道と全国の状況や課題は共通している部分が多いことが分かった。今後も全連小の活動を通して、国に意見表明してまいりたいと考えている。

次に三地区調研担当者連絡協議会についてである。今年度の協議題は、「教員の資質向上に向けた取組について」と「学習指導要領全面实施4年目に係る取組状況と課題について」であった。資料の5、6頁には、北海道が全連小に提出した協議題に関する資料を掲載している。

最初に資料7頁、「教員の資質向上に向けた取組について」に関わる全国の状況について全連小、佐藤調研部長のまとめである。各自自治体又は学校単位で取り組まれた、その充実に向けた工夫と努力が交流されていた。多くの自治体で育成指標が明確に設定されていることや、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に意識して取り組んでいるという声が多く聞かれた。しかし、授業力・学級経営力・児童理解・保護者対応・危機管理といった学校の根幹を支える力量に課題があるという声も数多く聞かれた。そうした課題を解決するためには、校内におけるOJT体制の確立が重要となるが、若手教員の増加、ミドルリーダーの不足、年齢構成の偏りによりOJTの推進が難しいという声も少なくなかった。

協議題2に関わる状況については、8頁をご覧ください。1点目として、教育課程実施上の工夫や課題について話し合われた。今求められているこ

とは、時間を生み出すことである。年間授業時数の余剰時間の削減や日課表の改善などが「教育課程の円滑な実施」と「働き方改革の推進」につながっていくということが共有された。

2点目として話し合われた、1人1台端末の整備と活用は、多くの地区で確実に進んでいる。しかし、課題として同じ自治体内でも、学校により格差があること。情報モラルやネットトラブルについて保護者との連動が必須であることが挙げられていた。まとめとして、文部科学省は「ICT機器の活用が進んでいる学校程、学力が高い傾向にある」と解釈している。自分で調べる活動、子ども同士の意見交流、調べたことを表現する活動に着目し、1人1台端末の効果的な活用について来年度も考えていく必要があるとまとめられている。

協議題1と2は、連動しており、いずれも、全国の状況や課題は共通点が多いことが分かった。

5 協 議

(1) 道小大会運営研修会<反省会・引継会>を受けて

①道小大会運営研修会<反省会・引継会>の報告

…………… 稲上 敏男 研修部副部長

資料、研修部 11 頁である。10 月 2 日に「大会運営研修会」を開催し、渡島・北斗大会の反省と、空知・岩見沢大会への引継を行った。今年度の大会を振り返ると、4年ぶりに完全会場で開催でき、参加した先生方の笑顔がいっぱいの温かい大会、そして、膝を突き合わせて話をすることで協議にも熱が入る熱い大会となった。コロナ禍での3年間、誌上開催やオンライン配信、ハイブリッド大会など、様々な工夫をしながら校長の学びを止めずにつないできたことが、今大会に大きなエネルギーを与えてくれたように思う。

資料、研修部 15 頁からは、渡島・北斗大会のアンケート結果となっている。今大会は、全道各地から 465 名の参加があった。4年ぶりの完全会場大会への参加者の期待も大きい中、渡島・北斗大会実行委員会の皆様のご尽力によって、ここに表れているように、多くの方が「いい大会だったね」と感じることができた大会となった。分科会場の選定やシャトルバスの利用、弁当の手配など、大会の準備は大変なご苦労があったことと思う。渡島・北斗大会実行委員会の皆様、そして、第3ブロックの皆様改めて感謝申し上げます。また、分科会のグループ討議、全体協議についても、多くの参加者の皆様が「よい」と感じてくださった。これは、提言発表をしてくださった皆様、分科会を運営してくださった皆様のお力によるものである。「分科会の充実こそが最大のおもてなし」の精神を今後もしっかりと引き継いでいきたいと思う。

研修 18 頁から 36 頁にかけて、大会運営研修会の記録を載せているので、後ほど確認いただきたい。この後、渡島・北斗大会について、理事の皆様から感想・ご意見をお聞かせいただき、次年度に生かしてまいりたいと考えている。

② 第 66 回道小教育研究渡島・北斗大会を

振り返って……………山田 健一 研修部幹事

すべての理事の皆様から話を伺いたいところだが、今回は第6分科会と第1分科会より2名の理事の方にお話をさせていただく。

【第6分科会】…………… 及川 年彦 理事

今回初めて分科会の運営に携わったので、そのことを中心にお話します。

大会当日までに分科会運営者研修会として計4回、限られた時間の中ではあったが、事務局幹事の里館校長を中心に佐藤校長の研究発表に向けて熱心な議論と分科会運営に向けての周到な準備をして当日を迎えることができた。

大会当日については、本日の理事研で何度も話が出ているように、会場で分科会は良かったと思う。どのグループも時間一杯、熱の入った議論が行われていた。ただ、私としても、もう少しグループ協議の時間があってもよかったですと感じている。

終わりに、第6分科会の運営に関わった校長に改めて「お疲れ様でした。」という言葉述べたい。



【第1分科会】…………… 寺本 公彦 理事

会場による開催で全道の校長が顔を合わせた二日間の研修に参加できてよかったという声を多く耳にしている。全連小植村会長のお話は、働き方改革を一層推進する視点から大きな刺激をいただいた。また、水谷選手の母親のお話も、親しみやすく分かりやすかった。次年度の講師についてもすでに示されているが、学校改革を意欲的に進めている工藤勇一氏の講話も今からとても楽しみである。

各分科会では、グループ毎に熱心な意見交換が行われていた。函館は、第1分科会で研究発表の機会をいただいた。当日の発表までの事前準備ではオンライン会議等により、他地区からも建設的な意見、助言をいただき発表の質を高めることにつながった。特に函館は採用校長が分科会の主な役割を担ったので、今回は今後につながる大変貴重な経験をさせていただいた。函館地区として大変感謝している。

オンライン開催も様々な利点はあると思うが、やはり年に1度、道内の校長が会合する研究大会には大きな意義があると改めて感じた。今後も、会の効率的な運営、簡略化できる点は思い切って簡略化し分科会の時間を確保に努めるなど、負担軽減への様々な創意工夫を進めながら開催されることを期待している。

事前準備から当日の温かい雰囲気での運営・進行、さらに次年度に向けた引継ぎまで、今大会を主管した渡島小中学校長会の皆様には、大変なご苦労があったと思う。心から労を労いたい。



(2) 第67回道小教育研究空知・岩見沢大会について

…………… 稲上 敏男 研修部副部長

まず、北海道小学校長会教育研究大会に対する基本的な考え方について説明する。研修部資料37頁である。

「1 教育研究大会に対する基本的な考え方」の1番から4番についてであるが、図にあるように、教育研究大会は「校長の職能向上」と「本道教育の振興」を目的とした道小研究・研修活動の中核を担うものである。その研究大会は、北海道小学校長会が主催し、開催地区は、5ブロックがもちまわりとし、大会運営は、主管する地区校長会が行う。5番から10番には、副主題とその趣旨、大会主題・研究課題の趣旨等の作成と決定について、分科会の研究発表・協議・運営などの手順が書かれてある。また、大会参加期待数の割合など、基本的な考え方が書かれてあるのでご確認いただきたい。

また、これまで、北海道小学校長会では、「分科会の充実こそが最大のおもてなし」を合言葉に、参画型・視覚型の分科会運営の工夫により討議の活性化を図ってきた。今年度、渡島・北斗大会を4年ぶりの完全会同により開催でき、分科会について多くの参加者が「よかった」と感じてくださった。次年度、空知・岩見沢大会も会同による開催で準備を進めていただいている。今年度の反省を生かし、また、令和8年の北海道大会につないでいく大会として、道小事務局と現地実行委員会が十分に連携をとりながら大会の準備を進めてまいる。

分科会の充実に関わって、1点お願いがある。研修38頁である。空知・岩見沢大会の分科会一覧の中に、発表地区も記載してあるので確認いただきたい。各分科会の研究発表の充実を図るためには、令和6年度5月に開催する「第1回分科会運営者研修会」から実質的な動きができるような体制が必要となる。そこで、各地区においては、研究発表者について、可能な限り早めに候補者を決めていただき、研究発表の準備に取り組むことができるようなご配慮をいただければ幸いである。何卒、ご協力くださるようお願いしたい。

続いて、空知・岩見沢大会の概要等について、山本指名理事から説明していただく。

…………… 山本 あさ子 研究指名理事

第67回北海道小学校校長会教育研究空知・岩見沢大会まで1年を切った。本日は、大会の進捗について説明する。

大会主題は「自ら未来を拓きともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」。副主題は、「ふるさとに誇りと愛着をもちともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」である。

大会は令和6年9月13日(金)、14日(土)の2日間、全体会場は岩見沢市民会館・文化センター



「まなみーる」大ホール、分科会場は、「まなみーる」他、平安閣・市民交流施設「であえーる」、ホテルサンプラザの4会場である。参加については、グーグルフォームでの申込となり、参加費は4,000円、昼食代は別となっている。

次に、大会準備の進捗を具体的にお伝えする。道小研究大会の合い言葉は「分科会の充実こそが最大のおもてなし」である。渡島・北斗大会の学び合い熱量はまだ記憶に新しく、空知・岩見沢大会でもそれを受け継ぎ、更によいものにできるよう準備している。

進捗を四つのポイントで紹介する。

1点目は、学ぶ時間の確保である。札幌、岩見沢間は電車で25分、各会場も徒歩1km圏内でアクセスできることから、分科会の時間も十分確保できる。

2点目は、学ぶ機会の確保である。講演などを一定期間限定でYouTube配信する。時間と場所を越えて学びの場を提供する。

3点目は、学ぶ場所の確保である。猛暑への対応を万全にしてお迎えする。

4点目は、抜群の機動力である。これまで5回の実行委員会を開催し、平成29年度の道公教空知大会のメイキングビデオを視聴するなど、モチベーションをアップさせている。

充実した分科会を経て、参加者された皆様の心にともった灯をさらに大きくする。それが記念講演である。講師は横浜創英中学・高等学校 校長 工藤勇一氏である。出口実行委員長、小山田事務局長が現地に赴き工藤氏ご本人にお会いし、講師依頼をしてきた。

空知校長会道小会員一丸となって、本大会がよき学びの場となり、よき出会いの場となるように努めてまいる。皆様のお越しをお待ちしている。

(3) 第67回道小教育研究空知・岩見沢大会及び第76回全連小徳島大会参加割当等について

…………… 稲上 敏男 研修部副部長

まず、第67回道小空知・岩見沢大会への参加期待数について説明する。令和6年度の予定会員数に基づき割り当てている。開催地区の空知地区は100%、第4ブロックの胆振、日高地区は70%、その他の地区は50%の割合として算出するのが基本となっているので、各地区の割当数は表の右端の数字になる。現段階での参加者は全体で521名である。割当数の左隣に「巡回役員」の枠があるが、ここは大会実行委員会3名、道小事務局役員5名、副会長6名、研修部長1名、その下は文字が消えているが、道小幹事3名の18名がここに入る。今はまだ札幌の8名と空知の3名だけしか数が入っていないが、次年度の副会長や研修部長の地区が決まったら、こちらの方に数を移動していく。

なお、発表者がいる分科会は、四角囲みで表しているが、3名以上となるように配置した。また、令和7年度に発表が当たっているところは、薄い色付きの枠に斜体で表しているように、若干多めに配置している。なお、令和7年度の全国発表が当たっている宗谷と渡島については、今後、発表分科会が決

まったら、その分科会の人数を増やす予定である。それに伴い、他の地区の分科会割り当ても変更になるので、今回の一覧は暫定資料としてご確認いただきたい。最終的な割当については、来年2月に開催される第5回理事研修会で、改めてお示しする予定である。

次に、研修部資料40頁、第76回全連小研究協議会徳島大会の参加期待数について説明する。令和5年度の会員数を基にして、北海道に割り当てられた割当数は101名となっている。その101名を令和5年度の会員数の10%で基本数を算出し、令和6年度の予定会員数や全国発表等を考慮しながら決定した。札幌は参加人数の内数となる役員が多いこと、令和8年度の全国大会開催地となることから、今年度よりも1名増やして、割当数を22名としている。各分科会の割当数についてである。発表が当たっている石狩については、担当する第3分科会において発表者のみにならないよう、3名体制を確保している。また、令和7年度の全国発表の宗谷、渡島については、発表分科会に2～3名を割り当てる予定である。それから、令和8年度の北海道大会での発表が当たっている地区には、発表分科会に2名ずつ割り当てている。なお、各分科会の割当数については、令和7年度の宗谷、渡島の発表分科会が決まってから確定するので、暫定版としてご確認いただきたい。空知・岩見沢大会の参加期待数と同様に、最終的な分科会の割当数は来年2月の第5回理事研で、改めてお示しする予定である。

各地区、ご確認いただき、準備をお願いしたい。

(4) 次年度活動計画・総会宣言文の作成について

……………末原 恵蔵 事務局長

令和6年度の活動計画作成委員会と総会宣言文の作成についてお話しする。資料「令和6年度活動計画作成委員・総会宣言文起草委員について」をご覧ください。

令和6年度の活動計画については、活動計画作成委員会が設置され検討を進める。この委員会は、各部から理事が1名、事務局からは、丹野事務局次長をはじめ、資料にあるメンバーで進められる。作成委員会は、2月13日(火)に行われる予定である。活動計画案は、第5回理事研修会の協議に付し、新年度の総会にて提案、決定という運びになる。この後、会長から各部理事の委員について委嘱される。

続いて、令和6年度の総会宣言文案の作成についてお話しする。次年度の総会出席代議員の中から、各ブロック1名の委員を選出し、その委員会において宣言文案を作成する。委員の選出のブロック内調整は、第5回理事研修会で行う。道小事務局からは里館幹事と佐藤幹事が担当する予定である。

(5) 次年度役員選考について

(6) 活動計画作成委員の委嘱について

……………森田 智也 会長

令和6年度活動計画作成委員会は、道小の1年間の活動について、審議し、柱を定めていくという委員会である。根拠資料を整理しながら、今現在求められているもの、ことを定めていくという尊い作業がある。

事務局資料にあるとおり、理事の委嘱については、各部より1名ずつ入っていただくことになる。経営部 南部理事、研修部 玉手理事、対策部 半田理事、情報部 大西理事の方々にお願いしたい。また、事務局については、ペーパーのとおりとなっていることを合わせてご報告する。

6 議長退任

7 連絡

- (1) 第5回正副会長研修会・理事研修会について
- (2) 次年度諸会議年間計画(案)について
- (3) 役職定年等会員の感謝状及び記念品について
- (4) 次年度全道会長研修会の話題集約について

8 閉会の言葉 …………… 徳田 恭一 副会長

現在、札幌は、一度10cmほどの積雪があったものの、溶けて、ほぼ無くなった状態となっている。一方、旭川は昨日41cmと12月最大の積雪があったと伺っている。除雪等大変なこととお察しする。2学期が、酷暑への対応から始まったことを顧みると、時の流れの速さを感じているのは私だけではないと感じている。

本日の会議では、今年度の諸取組の中間報告やまとめを受けて、次年度を見通す案件が多数提出され、審議・承認の手続きを通すことができた。

全連小の報告からは、次年度の四国・徳島大会の準備が着々と進められていること、そして再来年度の福岡大会の大綱が示されたことが分かった。

そして、道小も9月にお世話になった渡島・北斗大会が総括され、その財産が、次年度の空知・岩見沢大会へと引き継がれている。脈々と、そして内容の改善を図りながら着々と進められていることに、道小の組織力の高さを改めて感じている。

我々校長が研鑽を積み重ね、自己を高めて、各学校の経営・運営に還元することが、最終的には、「北海道の子どもたちの健やかな成長」につながると思う。研鑽をしっかりと積み重ねて行くためには、私たち自身が健康でなければならない。あと、2学期も1週間あまり、令和5年も半月となったが、健康管理に留意し、諸取組、諸対応を締めくくり、輝かしい新年を迎えられることを祈念し、第4回理事研修会の閉会の辞とする。

